

昭和電工セラミックス株式会社
CSR REPORT 2020



昭和電工セラミックス株式会社

本レポートの内容に関するお問い合わせは以下へお願いします。

本社・塩尻工場 総務部

〒399-6461
長野県塩尻市大字宗賀1
Tel: 0263-52-0180
Fax: 0263-52-2995

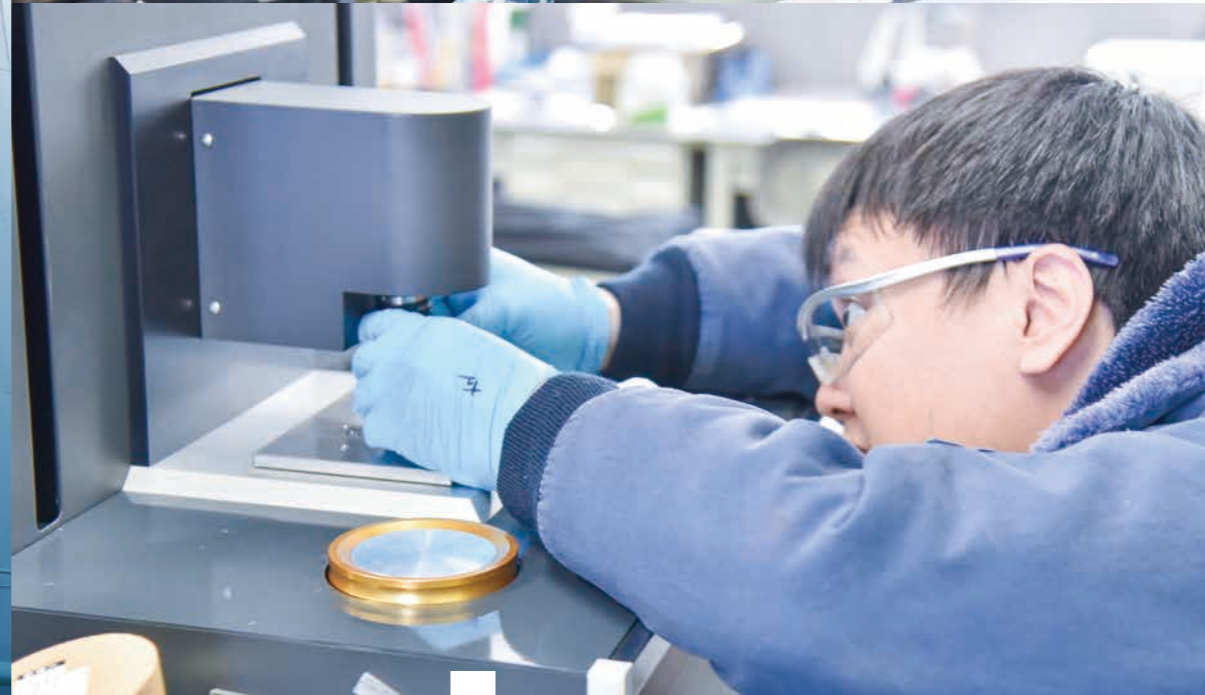
富山工場 環境安全グループ

〒931-8577
富山県富山市西宮町3-1
Tel: 076-437-9201
Fax: 076-437-6600

横浜工場 CSRグループ

〒221-8517
神奈川県横浜市神奈川区恵比須町8
Tel: 045-453-5111
Fax: 045-453-5004





経営理念

昭和電工グループ

私たちは、社会的に有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスの提供により企業価値を高め、株主にご満足いただくと共に、国際社会の一員としての責任を果たし、その健全な発展に貢献します。

会社概要

■ 昭和電工セラミックス株式会社 (昭和電工株式会社の100%子会社)

社長 大久保 卓也
 設立 1985年11月
 資本金 460百万円
 従業員 360名
 (2019年12月31日現在)
 事業内容 研削材、耐火材、超高压製品、
 ファインセラミックス成形体、
 フィラー材、
 酸化チタンの製造、販売
 ガラス用鏡面研磨材

拠 点 本社・塩尻工場

所在地 長野県塩尻市大字宗賀1
 敷地面積 300,000m²
 従業員数 148名 (2019年12月末現在)

富山工場

所在地 富山県富山市西宮町3-1
 敷地面積 210,000m²
 従業員数 133名 (2019年12月末現在)

横浜工場

所在地 神奈川県横浜市神奈川区恵比須町8
 敷地面積 189,000m²
 従業員数 79名 (2019年12月末現在)

■ 昭和電工株式会社

社長 森川 宏平
 設立 1939年6月
 資本金 140,564百万円
 従業員 連結 10,813名
 単独 3,437名
 (2019年12月31日現在)
 本社所在地 東京都港区芝大門1-13-9
 事業内容 石油化学、化学品、
 エレクトロニクス、無機、
 アルミニウム、その他

■ 編集方針

本レポートは、お客様、地域社会、取引先、従業員の皆様と私どもを結び、コミュニケーションを深めていただくことを目的に作成いたしました。
 本冊子を手にとった方に少しでも興味を持っていただけるよう、素材メーカーである当社がどのように社会とつながっているか、CSR活動の取り組み事例を挙げながらできる限りわかりやすく報告するように努めています。
 本レポートをお読みいただき、ご興味を持っていただけたら工場見学開催時にはお越しいただき、CSR活動に関する意見交換、情報交換をさせていただきながら、皆様との交流が深まるきっかけになればと願っております。

■ CSR (Corporate Social Responsibility)

企業が事業活動において利益を追求するだけでなく、様々なステークホルダーとの関係を重視しながら果たす社会貢献のこと。その対象は環境、労働、安全、衛生、人権、雇用創出、品質など幅広い分野に拡大している。

■ CSRレポートの報告対象範囲

昭和電工セラミックス(株)塩尻工場・富山工場・横浜工場を対象としています。2019年1月～12月の情報に2020年の情報を付け加えています。環境データの一部は、2019年4月～2020年3月のものです。

沿革

1933年10月 日満アルミニウム株式会社としてアルミニウムの製造を開始

1943年10月 日満アルミニウム株式会社を昭和電工株式会社に吸収合併し昭和電工株式会社富山工場となる

1946年10月 カーバイド、石灰窒素肥料の製造を開始

1959年4月 高炭素フェロクロムの製造を開始

1969年8月 高炭素フェロニッケルの製造を開始

1983年1月 熔融シリカの製造を開始

1983年11月 スポンジチタンの製造を開始

1987年1月 球状アルミナの製造を開始

1988年7月 高純度酸化チタンの製造を開始

1994年3月 空気分離装置の受託生産を開始

2014年1月 昭和電工セラミックス株式会社に商号を変更

2014年10月 東北金属化学(株)吸収合併によるSHOROX®生産を移行

2015年10月 横浜工場設立



トップメッセージ

新しい視点で課題解決と 社会発展に貢献します

当社は昭和電工グループ企業としてグループ経営理念、CSR方針のもと従業員一人ひとりがRC（レスポンスブル・ケア）、CSRを念頭に置いて活動を行ってきました。

さらに、2015年に国連サミットで採決されたSDGs（持続可能な開発目標）を私たちのCSR活動に取り入れはじめました。私たちはSDGsの取り組みを通じて、2030年までに達成すべきゴールを意識しながら、持続可能な社会発展に貢献できる事業活動を行いたいと思います。

私たちは、地球、社会の中で互いにつながっています。一つの活動や成果は、ある特定の地域、限られた人達のみが影響を受けるのではなく、最終的には社会全体へ影響を及ぼします。従業員、地域コミュニティ、お取引先、株主といった全てのステークホルダーとコミュニケーションを取り、私たちが提供する製品・技術・サービスによって人や社会をより豊かな方向へ動かせる企業になりたいと考えています。

私たちが企業活動を継続できる基礎となるのは、安全とコンプライアンス遵守です。この二つは、企業活動を継続できる資格ととらえています。より高いレベ

ルの資格を得るため、あらゆる観点からのリスクを想定し、安全な状態、コンプライアンス遵守の状態が継続できるよう、人の育成と仕組みの構築を行い、その実行に今後とも努力を惜しまない決意です。

当社の製品は素材を中心としているため、普段、皆様の目に触れるものではないかもしれませんが、社会の発展を支える為に必要な製品です。本CSRレポートは、普段なかなか目に触れることのない当社の製品並びに私達の企業活動の姿勢をステークホルダーの皆様にご紹介できる重要なツールであり、今後も重視していきたいと考えています。ステークホルダーの皆様には、当社の活動にご理解を戴くとともに、忌憚のないご意見やご指導を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

代表取締役社長

大久保卓也

ひとめでわかる 昭和電工セラミックスのCSR

昭和電工グループは経営理念のもと、持続的に発展し、社会から信頼・評価されるために、株主様をはじめ、お客様、取引先、地域関係者、社員など、全てのステークホルダーの皆様にご満足いただけるよう、建設的な対話を進めながら企業価値の向上に努めています。
株主価値・顧客価値・社会価値の最大化に向けた経営を今後とも推進していきます。

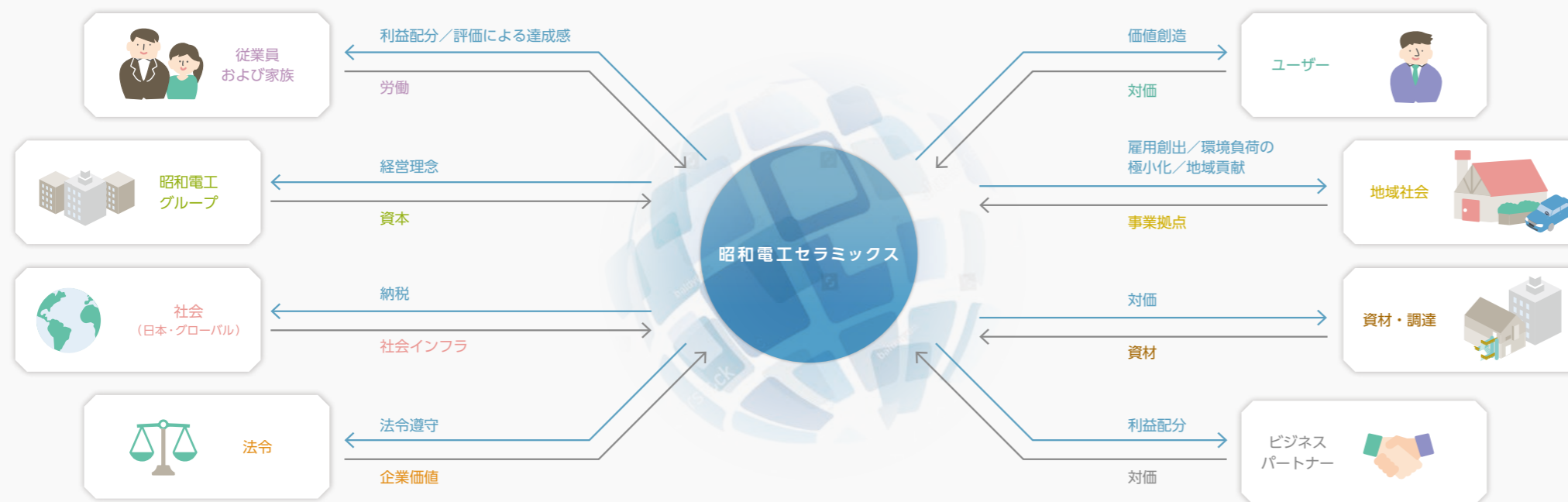
昭和電工グループCSR方針

昭和電工グループは、現在推進中の中期経営計画「The TOP 2021」において、当社グループの製品・技術が、地球環境やエネルギー・資源問題等の社会的課題の解決に貢献できるように事業を進めています。
特に「The TOP 2021」期間においては、「安全とコンプライアンスを基盤としたリスクマネジメントの深化とCSRコミュニケーションをもとにした機会の創出による経済的価値・社会的価値の創造」に重点を置いた活動を進めています。
当社グループの考えるCSRとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。当社グループは、製品・技術・サービスの提供により、豊かさや持続性が調和する社会の創造に貢献していきます。

昭和電工セラミックスのCSRマネジメント



昭和電工セラミックスと社会との関わり



CONTENTS

- 01 経営理念／沿革／会社概要／編集方針
- 03 トップメッセージ
- 05 ひとめでわかる昭和電工セラミックスのCSR
- 07 あなたのそばにSDC!

09 特集 総務責任者へのインタビュー SDCが考えるコミュニティへの参画

ISO26000の中核課題 ●●●●●● ●●●●●● ■：ステークホルダーの声

- 13 組織統治
 - ・私たちの行動規範／コンプライアンス
 - ・取締役会
 - ・遵守評価
 - ・監査役監査
 - ・内部監査

- 15 人権
 - ・人権教育
 - ・改善提案制度・ヒヤリハット
 - ・安全の取り組み
 - ・5S活動への取り組み
 - ・労働組合との対話

- 17 労働慣行
 - ・人材育成の取り組み
 - ・改善活動
 - ・緊急事態への対応

- 19 公正な事業慣行
 - ・CSR調達
 - ・顧客満足度調査 (CS調査)

- 20 消費者課題
 - ・マネジメントシステムの取得
 - ・品質保証体制

- 21 環境
 - ・廃棄物削減の取り組み
 - ・リサイクル実例
 - ・発電設備の紹介
 - ・エコ事業所認定
 - ・環境データ

- 25 コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展
 - ・出前授業
 - ・アルミ缶リサイクル活動
 - ・SDGsの取り組み
 - ・ストレスチェック制度
 - ・プラスチックリサイクル活動
 - ・納涼祭
 - ・レクリエーション
 - ・地域清掃活動
 - ・工場見学会
 - ・健康増進の取り組み
 - ・次世代育成支援活動
 - ・各種施設の開放

- 30 2020年CSR行動計画

あなたのそばにSDC!

◀ 暮らしの中のSDC 産業の中のSDC ▶

私たち昭和電工セラミックス (SDC) が製造している製品の多くは、皆様が直接、目にする機会は多くありませんが、社会の発展、皆様の暮らし・生活を便利にする様々な製品の素材・部材として使われています。ここでは、産業分野や身近な暮らしに使用されている製品をSDGsの目標と関連してご紹介します。



丸み状アルミナ ASシリーズ

家電・パソコンなどの電子機器や、電気自動車の電池などから発生する熱を逃がすため、樹脂やゴムの部材に添加されています。



スーパータイタニア® (酸化チタン)

複雑な電子機器の電圧変動を抑えるコンデンサの原料として、パソコンやスマホなどに使用されています。1台の中に、数百個から数千個も使われています。



ショウビーエヌ® UHP

電子機器内部で、熱源 (半導体チップ等) と放熱部材 (金属製フィン等) を接着する絶縁放熱樹脂シートへの充填剤に使われています。



アルナビーズ® CB

電化製品の放熱材として使用されています。複雑な電子機器の性能を維持するために欠かすことのできない材料です。



ホワイトモランダム® WA

自動車や産業機械に使用される部品・部材等の研削・研磨のための研削砥石、切断砥石、研磨布紙 (ベルト) 等に使用されています。



SBN K-TIP® (エスピーエヌKチップ)

自動車部品をはじめとする鉄系材料の研削・切削加工用素材として広く利用されている他、難研削材の加工にも使用されています。



低ソーダアルミナ ALシリーズ

家電・パソコンなどの電子機器や、電気自動車の電池などから発生する熱を逃がすため、樹脂やゴムの部材に添加されています。



SHOROX®

液晶パネルや、パソコンのハードディスク等高精度が要求される部材の最終鏡面研磨仕上材として使用されています。



特集
Special
Feature

総務責任者へのインタビュー

SDCが考える コミュニティへの参画

当社は昭和電工グループCSR方針で掲げる“社会貢献企業”の実現に向け、積極的にコミュニティへ参画するとともに、地域の皆様との誠実な対話を通じて相互理解を深め、地域社会の持続可能な発展につながる課題解決に協働して取り組むことが重要だと考えています。今般、各工場の総務責任者へ現在実施しているコミュニティへの参画の取り組みや今後検討していること、さらにはSDGsと各活動をどのようにつなげていくか聞いてみました。

SDGs（持続可能な開発目標）達成への取り組み

2015年9月の国連持続可能な開発サミットで150を超える加盟国の首脳が参加のもと、その成果文書として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダで2030年までに達成すべき目標として掲げられたのが、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。

SDGsは官民共通の目標として課題解決を求められていることが特徴です。昭和電工セラミックスは事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献していきます。



自分たちから積極的に
地域に出ていき、
さまざまなコラボの実現へ

from Shiojiri
塩尻工場

これまでのコミュニティへの参画で
特徴的な取り組みについてお聞かせください。

当工場では、従業員による実行委員会が主催する納涼祭「ふれあいパーティー」を5～6年前から開き、関係者だけでなく地域の皆さんにもご参加いただいています。地元の設備業者に設営を頼んだり、高校の吹奏楽部が演奏を披露したりと、地域の活性化に貢献するイベントとして定着しつつあります。

長年継続している取り組み、新しい取り組みがあればお聞かせください。



小学生向けの社会科冊子

はい。子どもたちへの社会教育として、小中学校の出前授業や工場見学受け入れ、中高校生のインターシップを行っており、市内・県内の教育機関とのつながりを持ち続けています。

2014年からは長野県教育委員会・塩尻市教育委員会より発行される、塩尻市内小学3～5年生に向けた社会科資料「わたしたちの街の社会見学 塩尻版」に賛同しています。

その他に、塩尻市が主催する年1回の清掃活動に従業員有志が参加したり、5S（p15参照）委員会メンバーが工場周辺のごみ拾いを定期的に行うなど、地域の環境改善に貢献するボランティア活動も積極的に行っています。

最後に、今後の課題、望ましい姿、SDGsとどうつなげていくか
お聞かせください。

見学などの要望があって応えるという受け身の姿勢ではなく、「何か私たちにできることはないですか？」とこちらから地域へ“御用聞き”に出ていくべきだと思います。まずは、市教育委員会と協働でできることを探るため、一緒に議論を始めたところです。また塩尻市は、各地域の特色を生かしたコミュニティスクールを学校ごとに運営しているので、そちらともコラボしてみたいですね。地域との共生を目指して、社会教育への参加に積極的に取り組みたいです。

当工場は2020年1月に「長野県SDGs推進企業」に登録しました。マイ箸持参を呼びかけるなど、納涼祭にSDGsを啓発する内容を盛り込むことも考えています。また、自社の所有地を利用した地域貢献事業なども実現できたらと思っています。従業員一人一人が自覚して、コミュニティとの関わりに参加する機会を増やし、「SDCのSDGsといえばこれ」という自慢できる目玉になるモデルを持つことが理想ではないかと思っています。



塩尻工場
総務部長
永富 太郎



from Toyama
富山工場

もっと広く深く
地域の皆さまと関わり、
フランクな関係を築きたい



これまでのコミュニティへの参画で
特徴的な取り組みについてお聞かせください。

毎年海開き前に富山県が主催する富山湾沿岸の一斉清掃があり、当工場から近い岩瀬浜の海岸に、社名入りののぼりを持参しPRも兼ねて参加しています。また、200団体70,000人が参加する富山市主催の清掃活動にも近隣地区の傘下に加わり参加しています。

工場見学は、近くの小学校の5年生児童が毎年訪れます。液化窒素を使って瞬時に花を凍らせる実験はインパクトがあり、見学後に提出される感想文には喜びの声が多く寄せられます。また、地区役員の方を対象にした工場見学も行っています。これら取り組みは10年以上に及びますが、この経験が記憶にあり入社した従業員もいます。製造工程や製品用途をご紹介しますと共に、排ガス・排水処理等の環境管理設備を見学いただき、環境・安全への取り組みを理解していただいています。

長年継続している取り組み、新しい取り組みがあればお聞かせください。

ドローン映像を使ったTVCMを地元で放映しました。地域の皆さんの間で話題になり、「こんなふう建物に建てたのか」と関心を持っていただけました。また、昨年初めて場内を会場とした工場主催の夏祭りを開き、社員や協力企業の方々にも楽しんでいただきました。

最後に、今後の課題、望ましい姿、SDGsとどうつなげていくか
お聞かせください。

江戸時代から続く「岩瀬曳山車（ひきやま）祭」の伝統文化を維持するために、地域の皆さんが大変努力されています。活動支援のため協賛金を供出し、地域と文化を守るための協力を継続したいと考えています。

見学会を除き自治会など、地域の方々とは直接お話する機会がまだ少ないのが現状です。まずは「昭和電工セラミックってどんな会社？」と気軽に聞いてもらえるような関係になれるよう、もっとこちらからはたらきかけていきたいですね。例えば地域のスポーツ大会への協賛など、いろいろ考えられると思います。

また、富山工場では、工場あげでの“ショールーム化”に取り組んでいます。あらゆるステークホルダーに関心を持っていただき、「地域にとって欠かせない存在」と思われることが目標です。小さな行動でも、SDGsの精神を具現化したものなら、それが裏付けとなり「見ていて気持ちのいい会社だ」と安心していただけるはずだと思います。



工場内に岩瀬曳山車祭の山車が来場

富山工場
総務グループ
リーダー
岡田 一晴



自社工場も含めたエリア
全体の再開発に、グループ
会社も一体で取り組む

from Yokohama
横浜工場

これまでのコミュニティへの参画で
特徴的な取り組みについてお聞かせください。

京浜工業地帯として発達した京浜臨海部に立地する横浜工場の周辺には、住民の方はいません。近隣の企業とともに地域発展・貢献を考える、“企業市民”という立場です。

当工場のある恵比須地区は、京浜臨海部再編整備マスタープランに基づいて、研究機能への転換による新たな研究開発拠点の形成が進んでいます。当工場では、生産拠点の一部海外移転に伴って古いプラントを解体し、グループ会社の研究開発拠点を建設する計画を進めるなど、再開発による社会的投資を行っている最中です。特に薬品を扱うタンクや配管などは、環境に配慮した方法で慎重に解体する必要があります。発塵なども含めた影響について、地域への配慮に重点を置き、理解を得るため周辺企業と情報共有しています。

また周辺企業とは、災害発生時の消防活動について協力会議を年1回開き、連携について話し合っています。

長年継続している取り組み、新しい取り組みがあればお聞かせください。

工場最寄りの新子安駅周辺では、コミュニティの皆さんと合同でのごみ拾いを年1回行っています。また、工場周辺の通勤路では、2カ月に1回、従業員が分担してごみ拾いを行い、地域の住居地と接点が得られるように心掛けています。



地域清掃活動

最後に、今後の課題、望ましい姿、SDGsとどうつなげていくか
お聞かせください。

再生マスタープランに関連して、景観も含めた“新しいまちづくり”に積極的に関わる場づくりを、周辺の企業とともに進めていかなければいけません。「このまちをよくしたい」という思いは、どの企業の担当者も同じように持っています。コミュニティの発展を考え、まちづくり協議会でアイデアや課題を出し合うなど、具体的な意見交換も始めました。自治体だけに頼らないまちづくりに向けて、一つずつ形にしていきたいです。

私たちはどうも、SDGsという言葉が難しく捉えているのかもしれませんが、乗り遅れないようにという焦りもありますが、従業員一人一人の自発的な行動に期待したいですね。



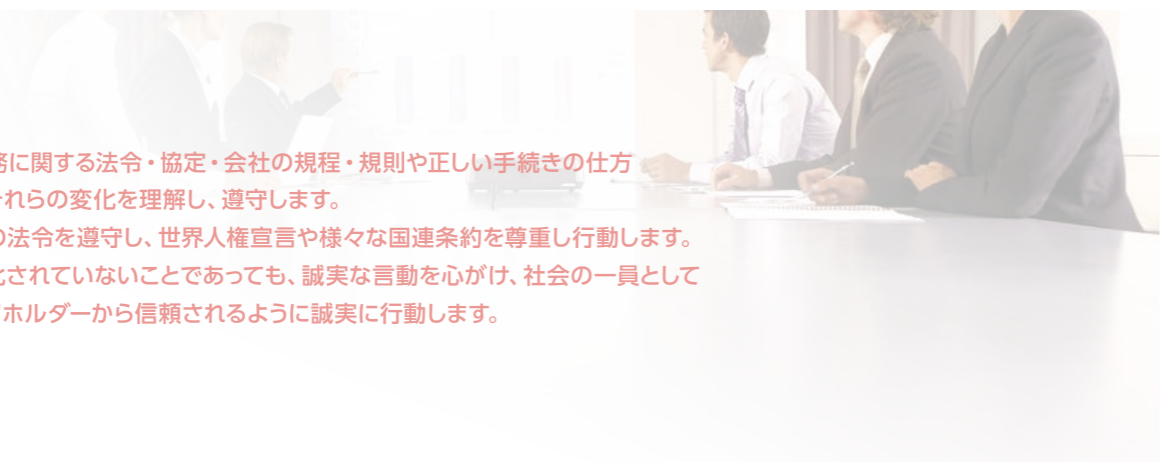
横浜工場
総務グループ
リーダー
三谷 洋之



組織統治



法令を遵守することはもとより、高い倫理観を持って行動します。



- 担当業務に関する法令・協定・会社の規程・規則や正しい手続きの仕方およびそれらの変化を理解し、遵守します。
- 国内外の法令を遵守し、世界人権宣言や様々な国連条約を尊重し行動します。
- ルール化されていないことであっても、誠実な言動を心がけ、社会の一員としてステークホルダーから信頼されるように誠実に行動します。

私たちの行動規範／コンプライアンス

昭和電工グループの考えるCSRとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。
行動規範に掲げる5項目に則り、私たち一人ひとりがステーク

ホルダーに対して何をすべきか考え、行動しなければならないことを挙げて、各部署でディスカッションを行っています。昭和電工グループの一員としての責任を果たし、国際社会の持続的発展に貢献していきます。



取締役会

取締役会は、会社の基本方針を決定するとともに会社法および定款で定められた事項および重要な業務執行案件について、審議を経たうえで決定し、経営の意図決定機能の迅速化と活性化を図っています。計画的に年4回の取締役会、年1回の定時株主総会、監査役監査を実施しています。

2019年実績

取締役会 3月17日、6月15日、9月17日、12月17日
定時株主総会 3月17日

監査役監査

昭和電工監査役による監査を毎年実施しています。工場概況、生産概況、技術・開発課題の進捗等、現地実査を通じて、経営の健全性確保のための提言、助言、勧告を行っていただ

遵守評価

法規制に則り適正な管理並びに対策実施が取られているか、毎年全部署でコンプライアンスチェックリストを活用して確認しています。

リストは、環境・安全・化学物質に係る法令をカバーした約500の設問からなり、継続してチェックを行うことで進捗の度合いや新たな法規制への対応、これに係る社内体系の整備や規程類等の文書整備を行うことができます。

近年は、化学物質に関する規制が厳しくなり事業者課せられる責任も益々大きくなってきていますが、このリストを活用することで漏れの無いチェックを行うことができます。

内部監査

昭和電工セラミックスが発足したのを機に、2015年より監査員の技能向上と他工場の生産品や業務を学び自職場に生かすことを目的に、3工場間で監査員の派遣を行っています。第三者機関による外部監査と異なり、社内統一した重点項目を掲げ自由な視点で、監査員に任命された面々が専門業務

とは異なる部門の監査を行うことにより、新たな発見や気付きの場に活用されています。毎年対象となる部門と監査員をローテーションすることにより、多くの学びの場と交流の機会を提供しています。

ステークホルダーの声：内部監査について

文化・風土を活かした新しい視点での内部監査に

2015年より、本来の監査に加え、人材交流を目的とした3拠点相互内部監査が始まりました。2019年は横浜工場にて、安全、環境、品質マニュアルに沿った書類監査と共に、規程に従い業務が遂行されているか、また現物在庫は適正か現場で確認を行いました。問題がある、またはなりうる事象を放置しない仕組み、組織的に取り組むべき

課題を明確にし、継続的改善の一助になればとの思いで提言をしました。

文化や風土は工場間で大きく違います。しかし、この違いこそが、埋もれたリスクの発見、問題点の指摘に寄与し、3拠点相互内部監査の意義に繋がっていると考えます。



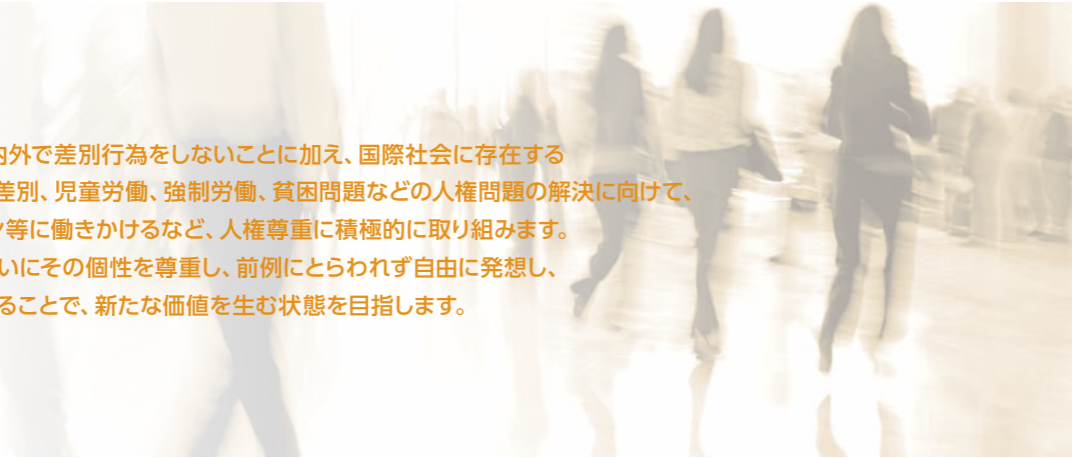
塩尻工場
SCMグループ
高砂 宗寿

人権



人権を尊重し、個性の尊重、自由な発想、建設的な議論により、新たな価値を創造します。

- 一人ひとりが社内外で差別行為をしないことに加え、国際社会に存在する民族差別、階級差別、児童労働、強制労働、貧困問題などの人権問題の解決に向けて、サプライチェーン等に働きかけるなど、人権尊重に積極的に取り組みます。
- 多様な人材が互いにその個性を尊重し、前例にとらわれず自由に発想し、建設的に議論することで、新たな価値を生む状態を目指します。



人権教育

昭和電工グループの経営理念に掲げる、「社会的有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスの提供」に向け従業員が働きやすい職場作り、人権意識向上を目的に人権教育を実施しています。

人権教育はショートケースを読んで、職場でディスカッションする形式で半年に1度実施しています。ディスカッションを通して人権について考え、理解を深め、知る機会となっています。

2019年実績

- 7月 テーマ「刑を終え、出所した人の人権」
- 12月 テーマ「大人の発達障害」

5S活動への取り組み

働きやすい安全な職場づくりを目指し、全部門で5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）に取り組んでいます。部署ごとに選任された推進員を先頭に、設定した目標を目につく場所へ掲示し自発的な取り組みを促しています。工場長をはじめとしたトップが率先して定期パトロールを行い、指摘・改善することにより理想とする職場づくりを続けています。

改善提案制度・ヒヤリハット

効率よく、働きやすい安全な職場づくりを目指し、30年以上前から改善提案・ヒヤリハット事例の提案制度を推進しています。改善提案は安全・安定運転、安定品質、コストダウン等を意識して行われ、日常の業務の中で改善活動を続けています。ヒヤリハットは自分が「ヒヤッとした体験」を広く周知することで、似たような災害を未然に防止するのに役立ちます。各工場では毎年、最多改善提案提出者の表彰を行っています。



塩尻工場 改善提案制度の表彰式

労働組合との対話

昭和電工セラミックス労働組合と労使会議等を通じ、現地で抱える課題の迅速な協議・対策および問題共有化のため意見交換を重ね、労使協業を基に経営方針・企画の浸透を図り活動を進めています。組合員の意見を経営に反映させた働き甲斐のある職場づくりのため各種活動を推進していきます。

安全の取り組み

安全教育

安全・安定操業の実現に向けて、従業員、協力企業責任者を対象に新規入構時の場内安全ルールや環境教育・製品教育・粉じん教育・酸欠防止教育・化学物質に関する教育を実施しています。なかでも化学物質の量が多い当社では特定の化学物質を題材にした教育を開催し、特性や取り扱いの注意点、被液または漏洩した場合の対処方法を共有しています。



富山工場 入退場システムの集合教育

危険体感教育

職場に存在する危険（危ない作業、守りづらいルール）を具体的に示し、身近な危険を肌で感じてもらうために、従業員を対象に危険体感教育を実施しています。危険体感教育で「危険とは何か?」「ルールを守るとはどういうことか」を再確認し危ない作業、守りづらいルールを洗い出し、作業しやすい環境づくりに努めています。

場内安全パトロール

法定パトロールの他、自主的なパトロールを実施しています。パトロールでは工場内で定められた規則の遵守状況の確認や不安全な状態で放置されたものがないかなど、様々な視点でチェックをしています。対策・改善を求めるともありますが、作業員の安全意識の向上はもちろんのこと、健康状態の確認にもつながっています。

保護具講習会

保護具メーカーから講師を招き、職業性疾病の最新情報やその対策としての保護具の選定方法を学びました。日頃から使用している保護具の点検方法と正しい着用方法を共有化しました。

フォークリフト安全教育

外部講師をお招きし、フォークリフトの「死角」や、操作における注意点、フォークリフトの特徴や事故事例について講義いただきました。実習では社員が実際にフォークリフト後方に人を立たせての死角確認を行い、乗り降りの手順から操作について注意すべき点を確認しました。さらにフォーク爪先の水平感知機能や、持ち上げた重量の計測機能や、持ち上げた重量の計測機能、点検・整備など専門的な視点で解説していただきました。



富山工場 外部講師による実機を用いた教育

熱中症教育

夏場は炎天下の作業ばかりではなく、室内の作業で脱水症状となる例があります。そこで、地域別、年代別の熱中症の発生傾向や発生時期など種々の統計資料をもとに、各工場で産業医による教育を実施しています。熱中症の症状やその対策に始まり、日頃の睡眠や規則正しい食生活など体調管理にまでテーマを広げ災害の未然防止に努めています。

安全審査

設備の新設、増設、改造、廃止等の工事並びに試運転を実施する際に事前にその計画の安全性を審査します。また、環境並びに製品品質への影響を評価する手順を定め、問題点を明確にし外部、内部に対する安全性を確保することを目的としています。

ステークホルダーの声：安全の取り組みについて

横浜再開発工事における安全の取り組み

横浜工場は、2018年より再開発プロジェクトとして設備の撤去工事をスタートし、2019年末に大部分の撤去を完了しました。横浜工場これまで経験したことのない大規模な撤去工事でもあり、プロジェクトメンバーと協働して進めました。撤去設備は、停止してから期間が経過していることから各所老朽化による腐食等がみられました。そこで撤去作業時の人の立入りの安全を確保するため、撤去設備の全てのステージ等の健全性を確認し、危険なエリアについては、立ち入り禁止等の措置を実施しました。

各所で再開発工事が行われる中で管理職は毎日現場に出て安全パトロールを実施し、「ご安全に!」の声掛けとともに作業手順や保護具の着用状況など安全に作業が行われているか確認し、不

安全行動や不安全状態がみられた場合は改善を指示しました。

再開発工事は、事前に施工内容について安全性評価委員会で施工要領書をもとに施工方法に不安全なリスクが潜んでいないか等、安全を確保するために審査を実施しています。

本年も融合の舞台（The TOP 2021のコンセプトを具体化する複合施設「融合の舞台」）を含めた再開発工事は続きますので労働災害を未然に防ぐために、安全管理の徹底を図っていきます。

横浜工場
CSRグループリーダー
森 誠



労働慣行



社員一人ひとりの労働意欲を高め、誰もが働きやすい職場づくりを推進します。

- 人材育成方針を明確にして社員の能力を開発し、働きがいを有する職場環境を整備します。
- 社員が安心して働けるよう、安全かつ健康に配慮した職場環境を構築するための取り組みを徹底します。

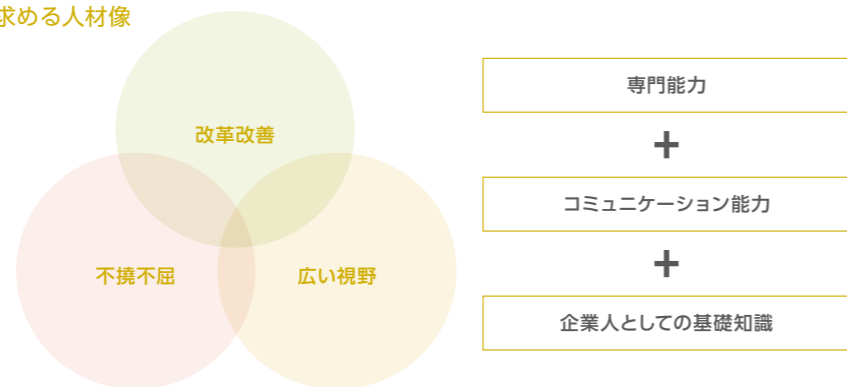


人材育成の取り組み

当社では、求める人材像を明確化し、教育体系を見直しました。以下の施策を講じることで、能力開発に意欲的な企業風土をつくっています。

- 1) 各職層に必要な知識を提供する階層別研修の充実。
- 2) 職場の将来を担う主力中堅社員育成を目的とした選抜研修の実施。
- 3) 社員が知識の幅を広げる機会を提供する教育通信の定期配信。

求める人材像



富山工場 社内教育の様子



富山工場 新入社員教育の様子

緊急事態への対応

■ 普通救命講習会

訓練用のマネキンを用い被災者の意識確認、救護応援の要請、心肺蘇生・気道確保、AED（自動体外式除細動器）の活用に至る一連の訓練をそれぞれ行いました。参加者は座学だけでなく、被災者に見立てたマネキンを前に訓練することで、施術の強さ加減をはじめ、より実践的に対応方法を身に付けることができました。

■ 自衛消防活動

塩尻工場では、塩尻市防火管理協会が主催する自衛消防訓練会にて、通報訓練、煙体験、初期消火訓練、消防用設備訓練、応急手当講習会に参加しています。富山工場では、富山県が主催する自衛消防操法大会にて、障害物を排除し119番通報を行ってから消火器・水バケツで消火をし終わるまでのタイムを競う競技に出場しています。横浜工場では、毎年、神奈川消防署主催の自衛消防隊消火技術訓練会に参加し、消火器操法訓練で火災発見から消火までのタイムを競う競技に出場しています。



横浜工場 放水訓練の様子

防火・防災の知識・技能を習得するため、今後も継続的に参加していきます。

■ 備蓄管理

企業防災の要素の一つである「生命の安全確保」の一環として、防災備蓄用品を備えて管理をしています。地震や津波、風水害などの緊急事態にあらかじめ備えて、被害を防止、または最小限に止めるための行動や避難場所を定めています。帰宅困難者への非常用物資として、水・食糧・その他必要物資を備蓄しています。また、災害時に無償で飲料が取り出せる災害救援自動販売機や津波に備えて耐震補強された事務所・建屋を設置しています。

■ 緊急時処置訓練

塩尻工場では、電炉の異常事態を想定した訓練を実施し、非常時の初動や建物からの退避、近接する職場で働く従業員の避難経路や集合場所を確認しました。

富山工場では、作業車からオイルが漏れ排水溝へ流れ込んだケースを想定し、発見通報から始まり、流出防止のため排水溝への土壌投入や堰板挿入、油の吸着・中和処理の訓練を実施しました。

横浜工場では毎月1回、緊急時処置訓練を実施しています。苛性ソーダが排水溝に流出したという想定で異常の発見から始まり、その対応方法について緊急時処置マニュアルをもとに管理室と現地設備で相互に確認をしました。

■ 消防設備点検

塩尻工場内外にある全ての消火器、火災報知機、消火設備の点検を年1回実施しています。点検では1本ずつ圧力、外観、機能をチェックしています。2022年より使用禁止となる旧型消火器は計画的に更新しています。

■ 防災訓練

各工場では災害発生を想定した防災訓練を実施しています。発災時に、各自が緊急組織体制下で迅速かつ適切な処置が取れるように訓練をしています。横浜工場ではガス漏れを想定した訓練を行いました。外に出られないという特殊な状況の中で、対策本部では情報伝達の方法がメールや電話に限られるなど、地震や火事などの災害とは一味違った訓練となりました。



横浜工場 防災訓練の様子

改善活動

■ SDK-S活動（塩尻）

SDK-S活動とは塩尻工場で推進している全員の力を結集し工場目標を達成する活動です。各課・グループの課題の中で重要なテーマの場合はチームをつくり、メンバーで知恵を出し合いながら取り組みを進めています。年2回の発表会、年3回の報告会・テーマリーダー会では毎回活発な議論が行われます。

■ きとぎと活動（富山）

きとぎと活動とは富山工場で取り組んでいる改善活動のことで、生産の効率を阻害するあらゆるロス、ムダの徹底的な排除により、災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロを目指し、生産効率を極限まで高めていくことを目指しています。この活動は、生産・開発・設備・管理部門など全員参加活動であり、現場では活動板やワンポイントレッスンシートなどを活用しながらサークル活動を展開しています。

■ OASIS活動（横浜）

横浜工場で取り組んでいるOASIS活動は昨年の取り組みが認められ、昭和電工グループ・ダイバーシティ CEO表彰で「優秀賞」を獲得しました。所属、世代、性別などバラバラのチームを編成し、場内美化、KYトレーニング、座談会に取り組んだ結果、工場全体の安全意識が向上し、工場内が綺麗になり、コミュニケーションの活性化につながりました。今後もOASIS活動に継続的に取り組むことで、従業員一人ひとりの意欲向上を図り、自主的な活動を展開していきます。

公正な事業慣行

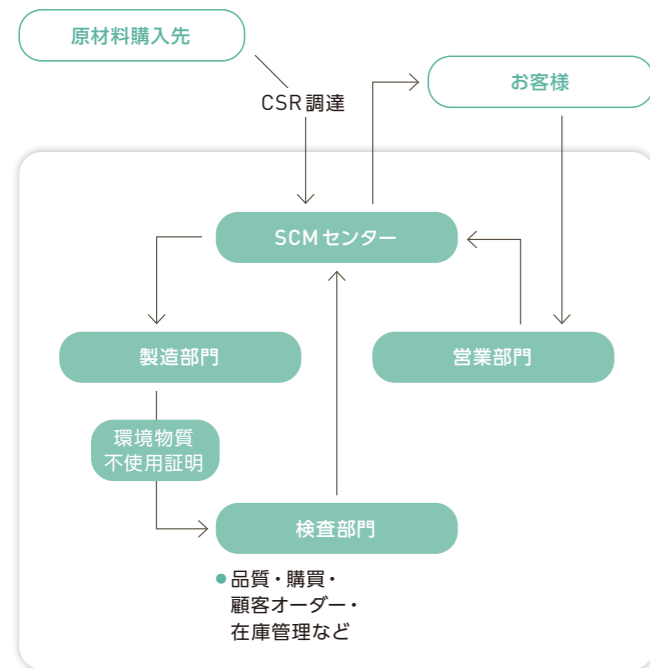


公正かつ自由な競争を基本とした取引を行います。

- 独占禁止法を遵守し、公正な取引を行います。
- 各国の競争法を遵守し、公正な取引を行います。
- カルテルに参加しません。また、それを疑われるような行動をとりません。

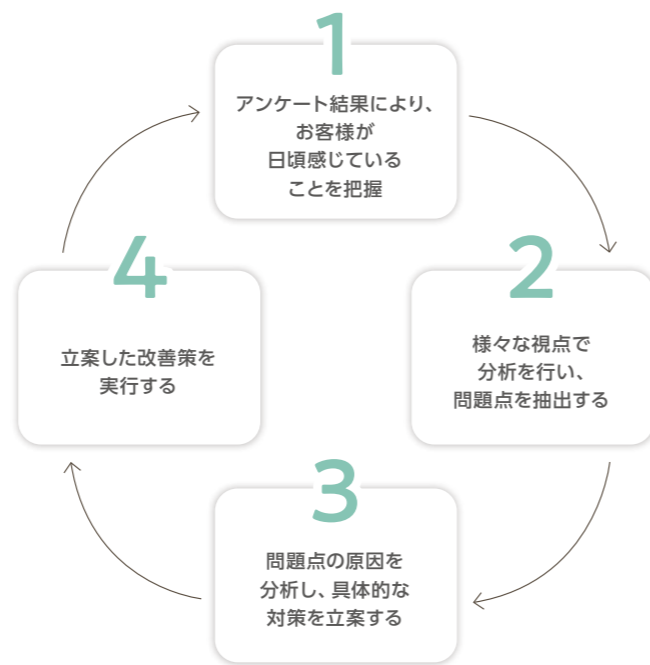
⑤ CSR調達

CSR調達は、「昭和電工グループCSR調達ガイドライン」をパートナーの皆様と対話を通して共有し、信頼関係をさらに強固なものとすると共に、協働で遵守することで、お互いの企業価値を向上させることを目指すものです。



⑤ 顧客満足度調査（CS調査）

当社では年1回、製品の消費者であるお客様（企業）にアンケートを実施し、製品、品質、開発、改良、納期、包装、配送、サービス、価格等に対する満足度を調査しています。



消費者課題



ビジネスパートナーと協働して、お客様の期待に応える製品を安定的に供給します。

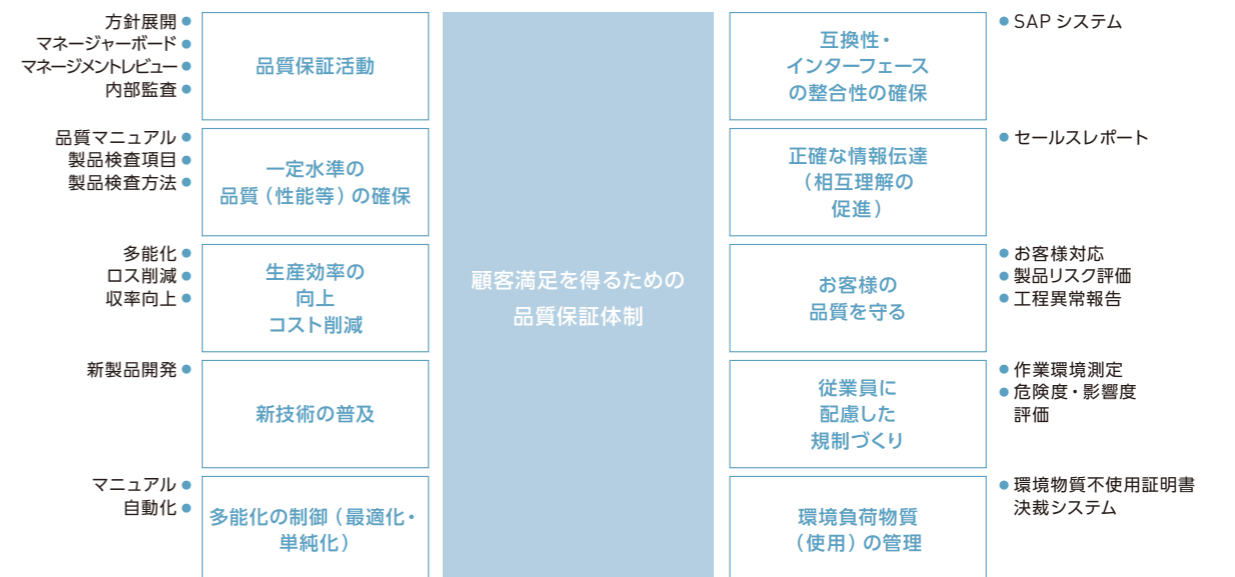
- 製品・サービス、およびパンフレット・カタログ等にわかりやすく正確な表示をします。
- お客様に当社の製品を推奨・説明する際には、事実を正確に伝えます。
- 購入先を選定する際には、門戸を広く開放し、公平に比較して決定します。
- 発展途上国と取引を行う際は、その経済的自立を阻害することのないよう、適正な価格による継続的な取引を心がけます。

⑤ マネジメントシステムの取得

当社では、国際規格のISO9001、ISO14001、マネジメントシステム規格のOHSAS18001 (ISO45001に移行中) を取得し、工場内で規程した要領に従い生産活動を行っています。

⑤ 品質保証体制

当社は、実用性および安全性に配慮した製品・サービスをお客様に提供するため、法令・規制要求事項を満たした製品、さらにはお客様にご満足いただける製品を提供できる仕組みを継続的に改善しています。



環境



レスポンシブル・ケアを推進します。

- **レスポンシブル・ケアは化学物質を取り扱う企業が自主的に環境・安全・健康に取り組む活動のことです。当社グループのCSR活動の根幹にはレスポンシブル・ケアがあり、その実践を通じて、社会から信頼・評価される企業を目指します。**

⑤ 廃棄物削減の取り組み

昭和電工グループは、全社を挙げ廃棄物発生量の抑制および、ゼロエミッション*の達成を目標に掲げ、外部委託業者の協力を得て3R (Reduce・Reuse・Recycle) への取り組みを進めています。

また担当者が毎年委託先へ出向き、中間処理・最終処分状況を査察し廃棄物が適正に処理・処分されていることを確認しています。

※ゼロエミッションとは：排出される廃棄物をいかに処理するのではなく、それを再利用しあらゆる廃棄物量をゼロにすることを社会全体で目指すグローバルな取り組み。資源とエネルギーをできる限り有効に使用し、環境への排出をゼロに近づけ資源循環型の社会を目指すもので、国連大学が1994年に提唱した。昭和電工グループでは「最終埋立処分量が廃棄物発生量の0.5%以下」と定義している。

ステークホルダーの声：廃棄物削減の取り組みについて

資源の有効活用

当社は地球環境・自然を、いかに大切に後世に残すか真のリサイクルカンパニーを目指し、廃棄物リサイクル事業を核に、清掃・養蜂・飲食事業へと広く事業を展開しています。

昭和電工セラミックス様とのお付き合いは16年におよび、この間廃棄物やリサイクルを取り巻く社会情勢や関心も大きく移り変わりました。

今日では、国内だけでなく世界情勢を見据えたうえで単にリサイクルを行うだけでは時代に取り

残されてしまい、いかに低コストで効率よくそして社会に還元できる資源を創り出せるかがポイントになります。この取り組みは産廃業者だけで済むことは出来ず、お取引様はじめ広く社会の協力無くして実現することはできません。

こういった考えにいち早く賛同いただきお預かりした汚泥をリサイクル品へと還元することで微力ながらも昭和電工セラミックス様の、ゼロエミッション並びにレスポンシブルケア活動に貢献させていただいています。

廃棄物を巡る課題は山積し、日々進化を求められていますがこれからも未長くお付き合いと提案を心がけていきたいと思っております。



株式会社アース・コーポレーション
磯部 勝也さん

⑤ エコ事業所認定

2010年に富山県では、県内廃棄物の減量化、リサイクル推進を目的に「富山県リサイクル認定制度」が制定され、廃棄物を利用したリサイクル製品や廃棄物の減量化・リサイクルなどに積極的に取り組んでいる事業所の認定が開始されました。認定の範囲は、リサイクル製品、エコショップ、エコ事業所の

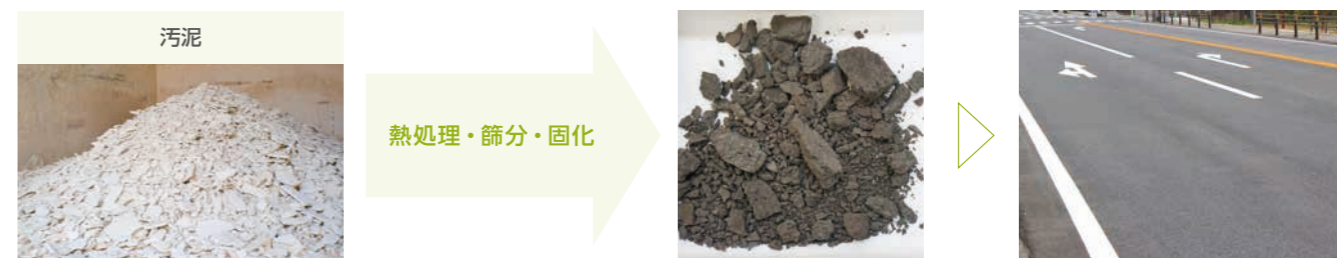
3分野にわたり、富山工場はゼロエミッションの達成やアルミ缶・エコキャップの回収・寄付およびLED照明の採用等の取り組みが評価され、2013年に県内6社目のエコ事業所に認定されました。認定された事業所は、県情報誌やHPに掲載され、広く内外へその取り組みが紹介されています。

⑤ リサイクル実例

異なった材質が一体化した複合製品や、新素材・リサイクル品を多用した廃棄物は分別やリサイクルが難しく、またリサイクル業者を取り巻く環境も今や国内ばかりでなく世界規模で厳しくなり、排出者に求められる責任も年を追うごとに増してきています。工場から排出される廃棄物は、場内での分別徹底を経て外部業者の技術協力により、そのほとんどがリサイクル品として広く利用されています。

■ ECO-RC 砕石

自動車や大型のトラックが通行しても十分に支えられる強度を保つために、アスファルト下のしっかりとした層を作るための路盤材として利用されています。



■ 再生プラ

金属片や異なる材質を含む成型品から異物を取り除き、フィルム状の軟質プラ・外装材や容器などに使われている硬質プラ・その他に分類された廃棄物を細かく裁断し再生プラスチック原料として生まれ変わります。



■ 再生塩ビ

場内設備から外された塩ビ配管には機器類や金属ボルト、芯材を含んだフランジが取り付けられているため、これらを取り除いた後に細かく裁断され再生塩ビ原料に生まれ変わります。成形されたものは再度塩ビ配管として利用されます。

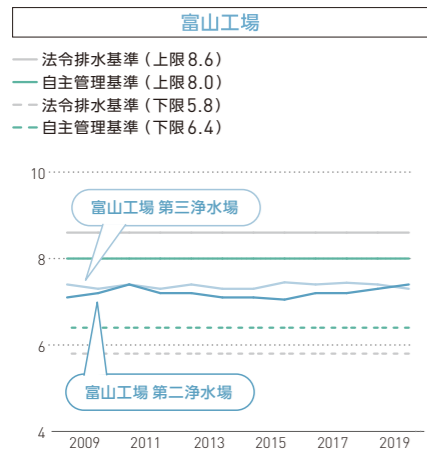
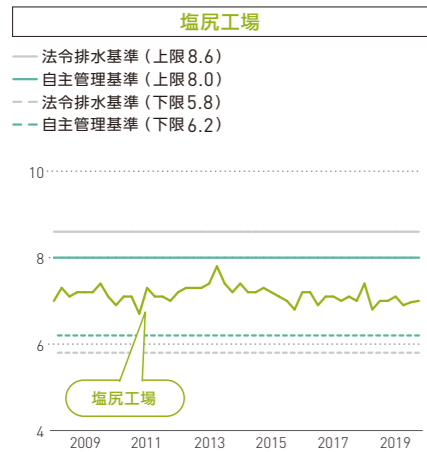


環境データ

水質データ：水質汚濁防止法による排出基準や地域との協定に基づく規制値を遵守しています。各工場では、地域との協定に基づく規制値より厳しい自主管理基準を設けています。環境維持のために、pH・SS・BOD・CODの常時監視を行い、排水監視の強化に努めています。

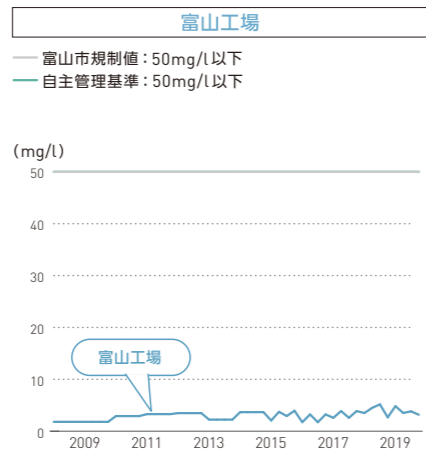
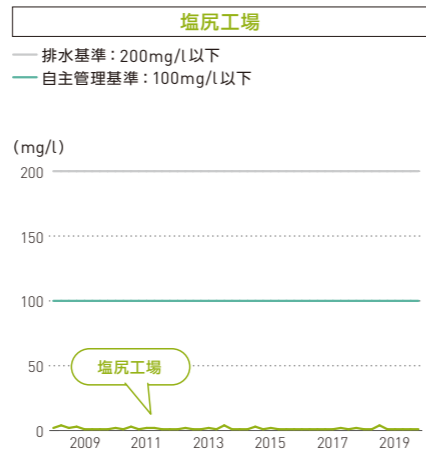
pH (水素イオン濃度指数)

物質の酸性・アルカリ性の度合いを示す物理量pH1～14の範囲で示される。pH7を中性としpH7より小さい値を示すと酸性、大きければアルカリ性を示す。



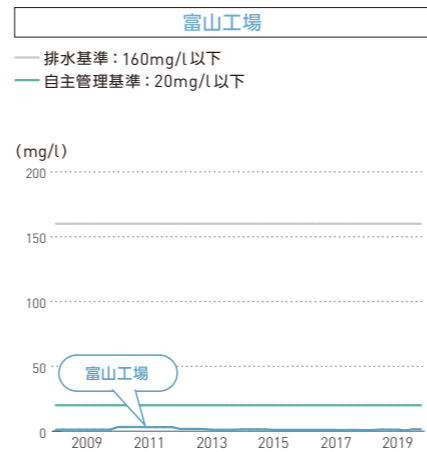
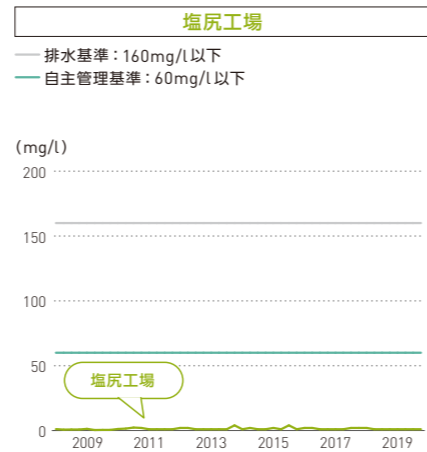
SS (水中に浮遊している物質)

水中に懸濁している直径2mm以下の不溶性物質のこと。



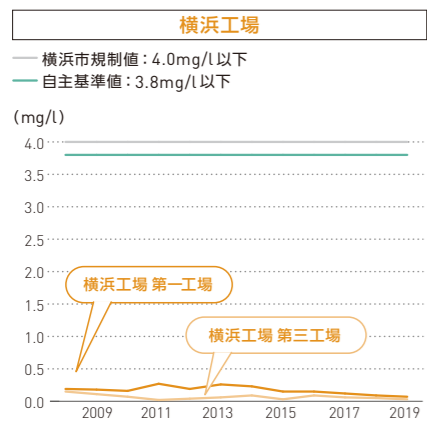
BOD (生物学的酸素要求量)

有機物指標微生物によって分解される際に消費される酸素量。数値が大きほど水中の有機物が多く汚染が著しい。



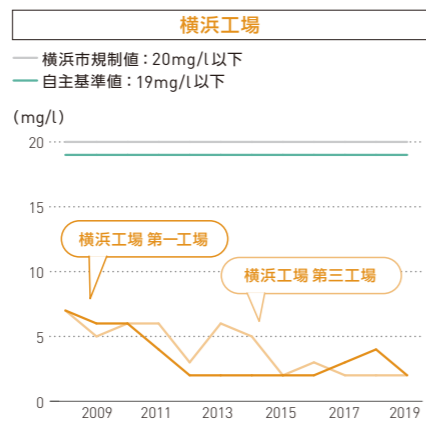
T-P (全リン)

リン化合物は窒素化合物と同様に、動植物の成長に欠かせない元素であるが、水中の濃度が高くなると水域の富栄養化を招くことになる。



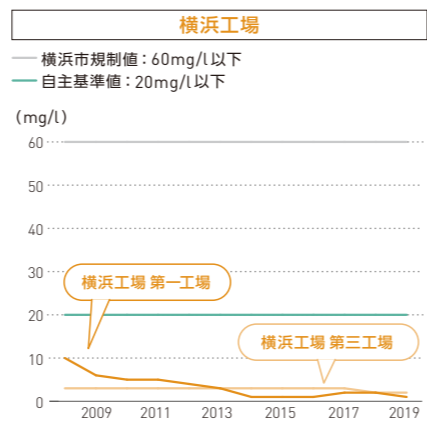
T-N (全窒素)

窒素は水域の富栄養化の原因の一つであることから、富栄養化のおそれのある湖沼、海域について環境基準 (全窒素)、排水基準 (窒素含有量) も設定されている。



COD (化学的酸素要求量)

水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、海水や湖沼水質の有機物による汚濁状況を測る代表的な指標。

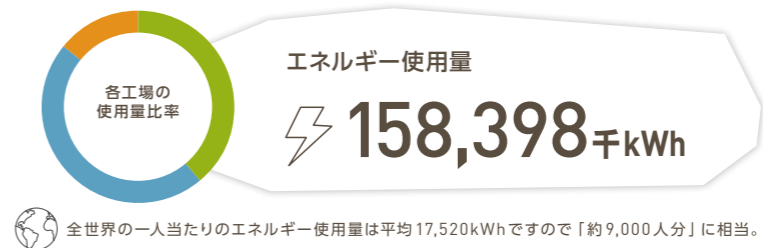


温室効果ガス (GHG)

地球温暖化防止および資源保護の観点から温室効果ガス排出量の削減に努めています。環境方針の項目に省エネルギーを重要課題として位置づけ、生産工程の見直し、運転最適化などによる省エネルギーを推進しています。温室効果ガスは燃料使用量と他社から供給された電気・熱の使用量から算出された排出量に排出係数を掛けて、算出されます。排出量は生産量の増減により変動します。



廃棄物処分量



発電設備の紹介

工場を稼働させていくうえで電力は重要ですが、限りあるエネルギーを有効活用するため、再生可能エネルギーの利用にいち早く着目し活用を進めています。

塩尻

信濃川水系上流の梓川の水力を利用し、戦後1950年(昭和25年)に運用を開始。自社工場の電力供給だけでなく、地域の水利事業においても広く利用されています。年間発電量は一般家庭5,460世帯の年間使用量に相当します。また2013年からは、敷地内に東京ドームの半分ほどの面積のメガソーラー発電設備を誘致し、年間180,000kWhの発電量を得ると共に、年間844tのCO₂の削減にも大きく貢献しています。



富山

多くの電力を必要とする電解電炉を用いた製造を主体としていた富山工場は、1954年(昭和29年)に電力会社を主体に民間企業11社が共同出資した発電所を神通川上流の岐阜県高山市の見座・葛山の2ヶ所に建設し運用を開始しました(現在は4社の出資)。年間300,000MWhを発電し、出資会社における消費電力を賄うだけでなく、地域の発展にも貢献しています。

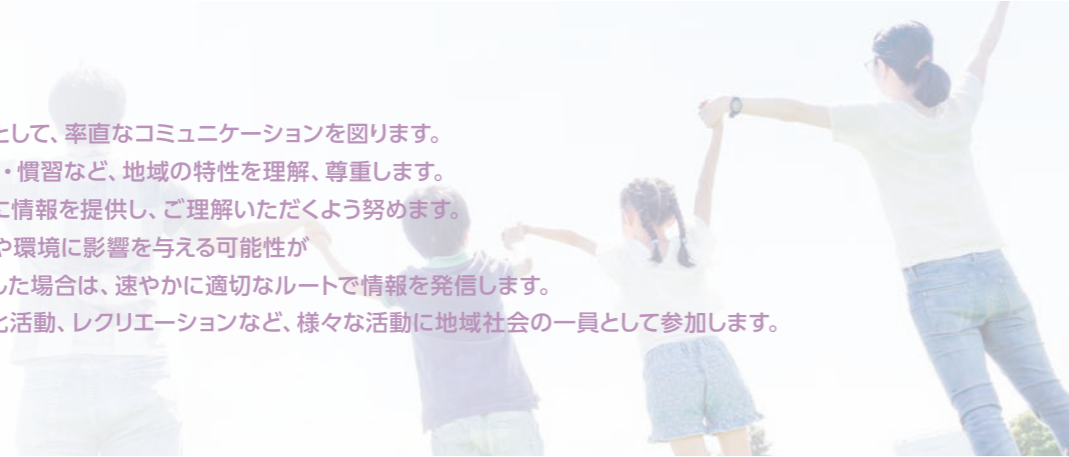


コミュニティへの参画および コミュニティの発展



立地する国・地域社会に対し適切に情報を開示し、コミュニケーションを進め、相互理解を深めます。

- 地域社会の一員として、率直なコミュニケーションを図ります。
- 文化・宗教・歴史・慣習など、地域の特性を理解、尊重します。
- 地域社会に的確に情報を提供し、ご理解いただくよう努めます。
- 周辺地域の安全や環境に影響を与える可能性がある事態が発生した場合は、速やかに適切なルートで情報を発信します。
- ボランティア、文化活動、レクリエーションなど、様々な活動に地域社会の一員として参加します。



出前授業

塩尻工場では、学生の将来を考えるきっかけ作りとしてキャリア教育を実施しています。従業員が講師となり小中学校で開催し、当社の事業紹介、働くことの楽しさ、やりがいを生徒の皆さんにお伝えしています。今後も出前授業の継続的实施により、キャリア教育内容の充実、生徒のサイエンス領域への関心を高める活動に取り組んでまいります。



塩尻工場 出前授業の様子

- 2019年実績
- 長野県塩尻市塩尻西部中学校2年生 85名

レクリエーション

健康づくりと社員同士の親睦を図るためにソフトボール大会、ソフトバレーボール大会、マレットゴルフ大会、近隣企業とのフットサル大会を実施しています。また、スポーツ以外のレクリエーションとして、歩け歩け企画では、大勢の従業員や家族に参加していただき日頃の運動不足を解消。普段あまり顔を合わせない方とも交流する機会になっています。2019年10月26日には、「社員同士のコミュニケーションを活性化させSDCを盛り上げよう!」をテーマに3工場の従業員40名が塩尻に集い、レクリエーションを通じて交流を深めました。



交流会2019の様子

アルミ缶リサイクル活動

当社では2001年より全従業員がアルミ缶リサイクル活動に参加しています。工場内で購入したアルミ缶だけではなく、各家庭から出た使用済みアルミ缶の一部を工場に持ち込んで回収しています。回収したアルミ缶の収益金の一部は、地域の小中学校や社会福祉事業団へ寄付され、社会貢献活動として定着しています。

2019年寄付実績

- 塩尻工場 市内小学校へ逆上がり練習機寄贈 (60,000円相当)
- 富山工場 荻浦小学校へ寄付 (46,620円)
- 横浜工場 公益財団法人 神奈川新聞厚生文化事業団寄付 (45,960円)

ステークホルダーの声：アルミ缶リサイクル活動について

自動販売機を通じて、お客様の“楽しく健やかな暮らし”に貢献してまいります。

当社は「人と、社会と、共に喜び、共に栄える」という理念のもと、全国に約28万台の自動販売機を展開し、価値ある商品やサービスの提供、様々な社会貢献活動を通じて、お客様の楽しく健やかな暮らしに貢献する活動を進めています。昭和電工セラミックス株式会社塩尻工場様には、売上金の一部を同社の活動に充てていただく支援自動販売機や、災害などが発生した際に商品を無償で提供することができる災害救援自動販売機を設置いただいています。

今後も当社では自動販売機を通じ、社会課題、災害対策、地域貢献などへの取り組みをご提案させていただきながら、楽しく健やかな暮らしに貢献できれば幸いです。

また、昭和電工グループ様オリジナルのラッピングを施した自動販売機を通じて、従業員様へのスローガンの浸透に向けたお手伝いをさせていただいております。

ガイドードリンコ株式会社
中部営業部 松本オフィス
アシスタントマネージャー
杉本 尚希さん



地域清掃活動

工場周辺や市や県の街づくりの一環として実施される清掃活動に参加しています。合わせて、工場内の緑地帯整備・荒地整備を進めて、目標としている「工場ショールーム化」を具現化するため、全従業員で清掃活動など美観を維持する活動を実施しています。

2019年実績

- 塩尻工場
 - 5月 5S委員によるゴミ拾い 18名
 - 6月 エコ・ウォーククリーン塩尻大作戦 39名
- 富山工場
 - 7月 岩瀬浜海岸清掃 20名
 - 8月 萩浦地区清掃 10名
- 横浜工場
 - 9月 わが町かながわ一掃作戦 (神奈川区役所地域振興課主催) 計60名
 - 1月, 3月, 5月, 7月, 11月 横浜地区A職クリーン活動 計100名



横浜工場 わが町かながわ一掃作戦

SDGsの取り組み

2019年にSDGsの本格的取り組みを開始し、社内ではワーキンググループの立ち上げやロゴの作成、工場間をSkypeで繋いだ集合教育の実施、長野県SDGs推進企業への登録に向けた準備などゆっくりではありますが着々とその歩みを進めています。

今年は更なる飛躍と活動の定着のため、各種活動の推進や社員証へロゴマークを表示するなど従業員一人ひとりの意識付けと参画を促してまいります。

2019年は3月、7月、9月、11月にSDGs教育を実施し、延べ150名が参加しました。



横浜工場 SDGs教育の様子

ステークホルダーの声：SDGs教育について

□一カ力で考えるSDGsの取り組み

稀に見る国連全会一致でSDGsが採択され、世界が一丸となり共通の目標に向けて動き始めています。我々PECとやまも目標達成のための情報拠点として、企業・自治体間のコーディネイトの助けを富山の地で付けています。

SDGsという言葉はよく耳にするけど、何から始めたらよいの?こんな素朴な疑問を投げかけられ昭和電工セラミックス様とのお付き合いが始まりました。

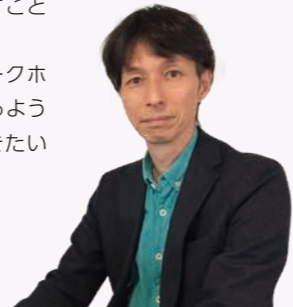
昨年は塩尻・横浜・富山の3工場をネット回線で繋ぎ、SDGsを基礎から学ぶ講座を4回に渡り担当させていただき多くの方に聴講いただきましたが、今年はこれを礎に更なる活動の推進を期待

しています。

労働慣行の視点では、持続可能な社会を後世に引き継ぐため、世界の誰かにとって快適な環境が他の誰かの犠牲の上に成り立つような仕組みをなくし、誰一人取り残さない世の中を創り出すことが求められています。

昭和電工セラミックス様を取り巻くステークホルダーの誰もが働きやすい環境を創りだせるようこれからも、様々な情報を発信し続けていきたいと思っています。

PECとやま
堺 勇人さん



工場見学会

当社では、お客様、地域の方々、学校関係者、行政関係者等様々な方に製品、安全・環境への取り組みを知っていただくために、工場見学会を随時実施しています。今後もわかりやすい工場見学会を継続していきます。

■2019年来場者数

- 塩尻工場 125名
- 富山工場 4名
- 横浜工場 6名



塩尻工場 工場見学会の様子

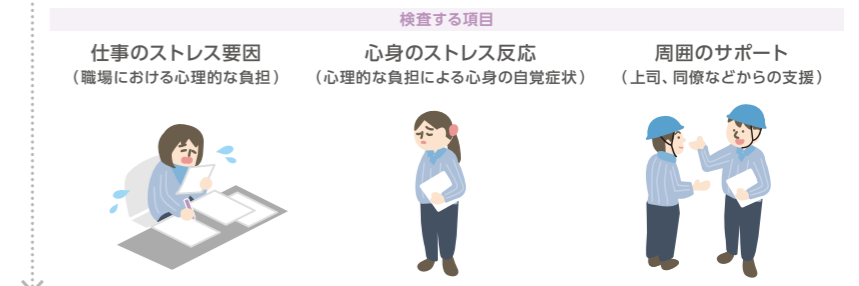
ストレスチェック制度

2015年12月1日から、労働安全衛生法の一部を改正する法律により、ストレスチェック制度が施行されました。

- 1) 働く人がストレスによって心の健康を損ねることを未然に防止する
- 2) 働く人が自分自身のストレスに気づいて対処する
- 3) 働きやすい職場の実現

以上3項目が大きな目的です。当社では、定期健康診断と合わせて簡単な質問に対して回答するストレスチェックを実施しています。今後も働く人の心の健康を守る取り組みを実施していきます。

1. ストレスチェックを受ける



2. 結果通知を受け取る (受検者全員)

3. 高ストレスと判定されたら

4. 面接の申し出

5. 面接指導の実施

6. 就業上の措置の実施 (必要な場合)

健康増進の取り組み

昭和電工グループは「健康保持・増進プラン2021」と称する健康増進活動を実施しています。4分野(①生活習慣病の予防②こころの健康づくり③生活習慣病の改善④健康診断と事後のフォローの確実な実施)の健康目標を設定し施策を実施しています。



横浜工場 エクササイズ講習の様子

ステークホルダーの声：健康増進の取り組みについて

健康経営 エクササイズ講習の取り組み

昭和電工(株)横浜事業所では横浜健康経営プロジェクトの一環で2019年11月より毎月エクササイズ講習会を開催しています。

当プロジェクトでは、従業員が長く健康にいきいきと働ける方法を考え、様々な施策を実行しています。そのひとつがエクササイズ講習会です。講習は多くの従業員が参加しやすいように勤務時間の中で行っています。

エクササイズの内容は、ボクササイズやヒップアップといったトレーニングを中心に軽快なBGMをかけながら楽しく行います。インストラクターは外部講師ではなく、私を含め4~5名が担当して

行っています。

参加者からは「あっという間の60分でした。体力のなさを実感しました。できなかったことを練習したいと思いました。」などの感想が寄せられ好評です。

従業員の健康増進を目指して横浜事業所では引き続き積極的に健康経営に取り組んでまいります。

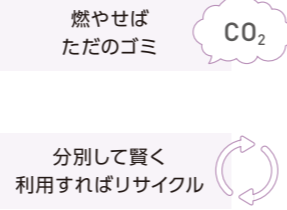
昭和電工(株)
横浜事業所
横浜健康経営プロジェクトリーダー
石岡 昌瑞



⑤ プラスチックリサイクル活動

ペットボトルのキャップをはじめとしたプラスチック類の回収活動を行っています。回収されたプラスチック類は、形状別に分別し専門業者に買い取っていただき、その売却益は買取業者を経由して日本赤十字社の活動に役立てられています。

また、プラスチックごみをリサイクルすることにより廃棄焼却時に発生するCO₂の削減にも役立っています。



■ 2019年実績

富山工場 日本赤十字社富山県支部へ廃プラ売却収益を寄付 (141,554円)

⑥ 次世代育成支援活動

次世代を担う高校生、大学生に工場見学や現場研修を通して作業体験をしていただいています。学習レベルに応じた様々な技術や新たな取り組みを体験していただくことで、化学への興味と理解を深める一助となることを目的としています。



富山工場 インターンシップの様子

■ 2019年受入数

塩尻工場 3名 (中学生、高校生)

富山工場 4名 (高校生)

⑦ 納涼祭

塩尻工場では10月18日にふれあいパーティー (納涼祭) をグラウンドで開催し、近隣住民、従業員・家族合わせて450名以上の方が参加しました。市内飲食店による出店や高校のjazzbandによる演奏、豪華景品が当たる大抽選会を行い大盛況でした。

横浜工場では10月30日に秋桜祭 (納涼祭) を開催し従業員、協力企業、招待客の皆様300名以上の方が参加しました。お楽しみじゃんけん大会や抽選会は大いに盛り上がり、多くの方に喜んでいただきました。

富山工場では9月6日に納涼祭を開催し、130名以上の方が参加しました。抽選会では豪華景品の抽選の度に、大きな歓声が響く賑やかな集まりとなりました。

今後も地域社会の一員として、納涼祭を通じてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深めてまいります。



塩尻工場 納涼祭の様子

⑧ 各種施設の開放

塩尻工場のグラウンド・マレットゴルフ場は従業員の健康づくり、レクリエーションの他、年間を通じて小中学校のクラブ活動や近隣地域のスポーツ大会、イベントにも利用されて

います。また、グラウンド横にあるバーベキューコーナーは、春から秋にかけて大勢の従業員や地域の皆様に懇親会や慰労会の場所としてご利用いただいています。

2020年 CSR 行動計画

◎: 当初計画より大きな効果あり ○: 有効な効果が得られた/継続的に実施
△: 計画していた結果を得られなかった/見直しが必要 —: 非該当

項目	2019年計画	2019年実績	評価	2020年計画
人権・企業倫理・コンプライアンス	人権啓発活動を着実に推進する	ケーススタディを用いたグループ教育	○	人権啓発活動の継続
	コンプライアンスと企業倫理を定着させる	私たちの行動規範と実践の手引きの読み合わせ 集合学習の教材を用いてグループ内でワークショップ	○	私たちの行動規範を活用してグループワークの継続・充実
RC体制	リスクの棚卸を継続する	リスク管理表・評価表の見直し実施	◎	リスク管理の継続
	クライシス対応の強化	防災訓練、事象別対応訓練の実施 マスコミ対応訓練の実施	○	クライシス対応強化の継続
	BCP (事業継続計画) 策定	重要設備の耐震診断・耐震化工事の実施	◎	BCPからBCMへの定着
	マネジメントシステム (RC/QMS/EMS/OHSAS) の改訂・更新への効率的な運用	3工場の共通マニュアル作成完了 EMS、QMS、OHSAS 統合運用開始	○	更新審査に向けた適切な対応
	各種教育体制の充実	階層別教育を実施	○	教育内容および体制の充実
	RC 監査体制の充実・RC 実績把握のスピードと信頼性向上	各課実績検討会での報告実施	○	スピードと信頼性の向上
労働慣行	多様性の推進に向けた取り組みを実施する	手話勉強会、障がい者雇用の継続	○	多様性の推進継続 (ダイバーシティ教育)
公正な事業慣行	CSR 調達対象範囲を拡大する	CS 調査の継続	○	CS 調査の継続
環境・安全	化学物質に関する教育・管理体制の充実	実施内容のルール化	○	化学物質に関する法令、安全教育の充実
	国内法規制におけるリスクアセスメントの実施	安全コンサルタントによるパトロール実施 化学物質リスクアセスメント教育実施	◎	安衛法対象物質および取扱作業におけるリスクアセスメントの実施
	海外法規制への適切な対応	海外向け SDS 作成 化審法教育の受講	○	海外法規制への適切な対応
労働安全	安全に強い職場と人づくり	安全大会、安全帯教育の実施 危険体感設備の活用	○	危ない設備、危ない作業の撲滅教育・訓練による安全感覚向上
	安全管理レベルの向上	EMS、QMS、OHSAS 審査受審	○	労働安全衛生マネジメントシステムの規格認定および維持・更新審査結果を反映したルールの見直し
設備安全	再発事故防止	災害の水平展開によるリスク抽出と対策実施 協力企業特別措置実施基準作成	○	「創る安全」活動の完全定着
	特定危険物質のリスク排除 自主保全	— 育成実施	— ○	— 設備安定化、保安監督者育成継続
労働衛生	衛生管理体制の強化 (関係会社・協力企業含む)	各種教育、職場安全衛生会議の実施	○	管理体制の強化、洗身洗顔設備の設置・整備
	作業環境・作業方法の改善	熱中症対策の充実 (暑さ対策、休憩所の増設)、作業別のパトロール実施による指摘と改善	○	作業環境・作業方法の改善
	快適な職場の形成	室内完全分煙化継続 (塩尻工場 屋内禁煙化完了)	○	転倒・つまずき災害撲滅 分煙化継続 (就業時間内禁煙検討)
健康管理	昭和電工グループいきいき健康づくりプランの推進	腰痛予防体操・栄養教育等実施	○	健康保持・進捗プラン 2021 の継続
	健康管理の強化	健康診断受診率 100% ストレスチェック制度実施継続	○	健康管理の強化、ストレスチェックの適切な実施と活用 健康経営を目指した活動
産業廃棄物の減量化、再資源化の促進	産業廃棄物の減量化	埋立廃棄物をリサイクルへの転換実施 ばいじんリサイクル化 工程内のモレコボレ防止対策による廃棄物削減	◎	ゼロエミッション継続
	再資源化の促進	アルミ缶リサイクル活動継続 古紙回収置場の移設	○	再資源化の具体化 プラリサイクルの推進
水資源リスク対応	水資源リスク低減	地下水の水質調査実施	○	水資源の定期監視